

JARUS-XIV_G型・XIV_{GP}型の設計指針の一部変更

1. JARUS-XIV_G・XIV_{GP}型におけるばっ気槽第2室へのバツフル板の設置について

<変更前>

ばっ気槽第1室への流入部は、流入汚水の短絡の防止及び汚泥と流入水の混合を図る観点から、原則としてバツフル構造としている。

ただし、ばっ気槽第2室にはバツフル板は設けない構造とし、初期運転では、汚水流入管及び返送汚泥流入管を槽底部まで下げるにより対応していた。

<変更後>

ばっ気槽第2室もばっ気槽第1室と同様にバツフル板を設置する構造とする。

<理由>

JARUS-XIV_G・XIV_{GP}型におけるばっ気槽の運転には非ばっ気工程（標準：35分/60サイクル）があり、ばっ気槽第2室においても、この非ばっ気工程時の汚水短絡防止を積極的に図るためバツフル板を設置し、これにより活性汚泥ゾーンと接触させることとする。

また、現状の配管のたち下げでは、ばっ気槽第2室に入る混合液のサンプリングが出来ないこと、さらに2室運転とした際には、配管部分がデッドゾーンとなることが理由である。

2. JARUS-XIV_{GP}型ばっ気槽第2室へのバツフル板の設置に伴う鉄溶液注入位置の変更

<変更前>

JARUS-XIV_{GP}型における鉄溶液注入位置は、ばっ気槽第1室のバツフル内としていた。

<変更後>

ばっ気槽第2室もばっ気槽第1室と同様にバツフル板を設置する構造とするため、鉄溶液の注入位置を現状のばっ気槽第1室からばっ気槽第2室のバツフル内に変更する。

<理由>

JARUS型施設の鉄溶液注入位置は回分方式を除いて、後ばっ気槽や2室構造のばっ気槽では後段の第2室に注入している。これは出来る限り菌体合成に用いられるリン摂取ガス

ムーズになされるようにすること、また鉄溶液による硝化作用への悪影響を極力少なくすることを目的としている。

ただし、本処理方式では非ばっ気工程（35分／60分サイクル）では無攪拌のために、従来の鉄溶液注入位置の考えでは鉄溶液と汚水の混合に懸念があったことから、汚水と返送汚泥が流入するばっ気槽第1室バッフル内に鉄溶液を注入し、リンと鉄溶液の接触を促すこととした。

今回、ばっ気槽第2室にもバッフル板を設置することとしたため、これまでのJARUS型施設の鉄溶液注入位置の考え方に準じて、注入位置もばっ気槽第2室のバッフル内とする。